

元気の出る情報・交流誌

手をつなぐ

特集

トイレあれこれ

今月の問題 | 今後の成年後見制度に期待するところ
ひびき | 藤野知明 (映画監督)

2025

9月

No.835



CONTENTS

手をつなぐ

2025.9 [No.835]



表紙絵「好きな乗り物」

■田山統一(たやま・のりかず)

50歳

■茨城県ひたちなか市

地域活動支援センターふわり

■作者からのひとこと

僕は「らぼーる」で仕事をして「ふわり」で絵を描いています。ミシンで刺繍もします。カラオケも好きです。

一つ屋根の下でくらすせんせいと「わたしの自立」を考える [最終回]

共に歩む人と描く「自立のかたち」 Aju・永浜明子

02 わたしたちも言いたい

谷村新司さんが大好きです 小笠原ひろみ

05 知りたい!あなたの見ている・感じている世界 [最終回]

好きこそ物の上手なれ 打浪文字

07

特集

トイレあれこれ

トイレにまつわる成功談・失敗談

08 ・みなさんのトイレ体験教えてください!

10 ・焦らずに歩んだ、親子のトイレトレーニングの時間 しーま

誰もが安心できるトイレのために

12 ・トイレの困り事、ありませんか? 永田直子

14 ・トイレトレーニングが終わってもトイレで悩む私たち 善川夏美

知って得するトイレ情報

16 ・はるにれの里のグループホームでの取り組み

18 ・毎日の排泄をもっと安心に!

トイレの困りごとに役立つ支援アイテム&サービス

20 ・トイレあれこれ

地震が起きても「快適トイレ」のススメ 湯井恵美子

現場からの声

22 ・トイレトレーニングの基本と関わり方 川上康則

24 ・知的障害のある子どもの排便(便秘)にもう少し関心を 中野美和子

みんなに開かれた“トイレの自由”を考える

26 ・どうぞ胸を張って使ってください 川内美彦

29 今月のオススメ

30 ひびき

うまくいかなかったことをなかつたことにしないために 藤野明知

33 こつこつ進めば大丈夫。～思いが届くコミュニケーション～ [第3回]

年相応の、一人の人間として 認定NPO法人こつこつ

34 今月の問題

今後の成年後見制度に期待するところ

38 けんりって何?

インクルーシブ教育、社会への種まき 山本季枝

40 暮らしを支える福祉の制度 [第55回]

成年後見制度について その1 又村あおい

42 中央の動き

成年後見制度の改正に関する中間試案が公表されました (その1)

45 ニュースのじかん

はたらくよるこびが 社会の未来を彩る うちの〇〇自慢! [第3回]

店舗づくりにも工夫あり!チョコレートと焼き菓子の専門店 社会福祉法人北摂杉の子会

谷村新司さんが大好きです

宮城県手をつなぐ育成会 みやぎフレンズ会

小笠原ひろみ

私は、谷村新司さんが大好きです。

グループホームの部屋に

お世話人さんにコピーしてもらった写真をはっています。

最後のアリスのコンサートに行きました。

働いたお金で谷村さんのソロライブも観に行きました。

本も高かったけれど、家族に買ってもらいました。

3000円くらいしました。



今は、最後の歌「夢のその先へ」のCDが欲しいです。

高いけど、いつかは必ず買いたいと思っています。

3年前に亡くなってしまい、とても悲しかったです。

夢の中でもいいから会いたいと思っていいたら、

会うことができました。また会いたいです。

夜、星がでているとどれが谷村さんかなと見えています。

折り紙、詩も大好きです。つまようじ入れなどを作って

友達にプレゼントしたりしています。

NHKのハート展にも出して選ばれると思っています。



「わたしたちも言いたい」ではみなさまからのお便りを募集しています（宛先は48ページ）。
生活のこと、仕事のこと、暮らしのことなどふだん感じていることを書いてお送りください。



トイレあれこれ

日々の暮らしに欠かせない「トイレ」。その場面には、安心や不安、さまざまな思いがあります。今号では、障害のある人やその家族が体験したトイレにまつわるエピソードや、日々の工夫を紹介します。

外出先での戸惑い、異性介助の難しさ、多機能トイレをめぐる課題と変化——。誰もが尊厳をもって安心して使えるトイレとは、どのようなものか。実践や声から学び、ともに考えたいと思います。

みずほさんの

トイレ体験 教えてください！

外出先でのひやりとした出来事、親子でのトイレトレーニングの奮闘、
うまくいった工夫や心に残るエピソード…。
保護者や支援者のみなさんから届いたリアルな「トイレ体験」をご紹介します。

「見通し」がトイレ成功の鍵に（特別支援学校教員）

はじめての場所が苦手な場合、校外に出た際にトイレに行けなくなる子どもたちがいます。はると君もその一人。泊りがけの移動教室ではスケジュールがあるので、一人ひとりのペースに合わせることは難しさもありますが、「自分で選べる」ことが安心感につながります。一日のスケジュールの中でトイレに行ける場所を写真つきで伝え、見通しをもたせながら、本人の気持ちやペースで選べるようにしました。個室の扉には好きなキャラクターのカードを貼って、安心して過ごせる工夫も。すると最初は用を足せなかったのですが、2カ所目の見学先で見事成功！ そのときのほっとした表情が忘れられません。



10年かけて届いた「トイレ行きたい」（東京都・谷田さん）

わが家は三つ子という環境で、障がいがなくとも特別な子育て。そこに障がいのある子がいたら、親の私が越えるべきハードルがいくつもありました。ただ、オムツをしている時期は楽でしたが、就学を前にそのハードルはとてつもなく多くなりました。

喜怒哀楽は簡単でも、トイレの意思を伝えるのはなかなか難関。まして息子は知的障害と身体障害、構音障害があるので伝えることも大きなハードル。そのために最初はタイマーを使って誘導し、そのうちにサインや絵カードを使って意思を伝えてもらうようにさせ、最終的にそれらも使わなくなりました。その期間は10年。長い道のりでした。